

問1 下の身分の者が、上の身分を力で倒して地位を奪う、室町時代の社会風潮を何という？

問2 琉球王国が、貿易の拠点として整備した都は現在のどこにあたるか？

問3 室町時代に、幕府が許可を与えた商船が中国の明と行った貿易を何という？

問4 浄土真宗の強い信仰で結びついた門徒たちが、室町時代に起こした武装蜂起のことを何という？

問5 京都の北朝と吉野の南朝の対立を終わらせ、南北朝を合体させた室町幕府の第3代将軍は誰？

問6 15世紀に統一され、中継貿易で大きく繁栄した島はどこ？

問7 室町時代の定期市において、広く流通していた中国から輸入された銅銭を何という？

問8 室町幕府が関東地方を支配するために設置した、室町幕府の地方統治機関の設置者は誰？

問9 東山文化を代表する建築物で、足利義政が京都に建てたものは何？

問10 勘合貿易が始まるきっかけにもなった、当時朝鮮半島や中国沿岸を荒らしていた海賊集団のことを何という？

問11 琉球王国が中継貿易を行う上で、最も重要な窓口となっていた当時のアジアの大国を何という？

問12 室町幕府の足利尊氏によって京都を追われ、吉野に南朝を開いた天皇は誰？

問13 下剋上の風潮の中で、守護大名が衰えた後に各地で登場した新しい支配者のことを何という？

問14 室町時代に浄土真宗の門徒が守護大名を倒し、約100年間にわたって自治を行った場所はどこ？

問15 室町時代に質屋を営み、酒屋とともに金融業として富を蓄えたのは何？

問16 建武の新政が行われていた期間の混乱ぶりを風刺し、当時の社会状況を伝えるために作られた落書きを何という？

問17 室町時代に中継貿易で日本や東南アジアと活発にやり取りをしていた国はどこ？

問18 室町幕府において、将軍を補佐するために置かれた幕府の重要役職を何という？

問19 京都の東山に慈照寺銀閣を建て、書院造を代表する遺構を残した室町幕府の将軍は誰？

問20 琉球王国が日本、中国、東南アジア諸国を仲介して行った、輸出入を通じた経済活動を何といいますか？

問21 足利尊氏が京都に開き、武士による統治体制を確立した新しい政府を何という？

問22 床の間や付け書院などの特徴を持つ、後の日本建築の基礎となった様式を何という？

答え合わせ・解説

問1	答え 実力	かつての伝統的な秩序や家柄が重んじられる時代から、個人の能力や武力が重要視される時代へと変化しました。これが「実力」主義的な社会風潮である下剋上の本質です。
問2	答え 首里	首里は琉球王国の王都として整備され、首里城が置かれました。ここを拠点に琉球は明や東南アジア諸国との間で中継貿易を行い、各国の特産物を集めて再分配することで大きな利益を得ました。首里はまさに王国の政治・外交の中心地であり、交易により発展した高度な文化が根付く街でした。
問3	答え 勘合貿易	足利義満が明の皇帝と交渉し、正式な貿易が始まりました。日本側は証明書である「勘合」を持つ船のみが貿易を許可され、日本からは刀剣や工芸品が、明からは生糸や「永楽通宝」などの銅銭が輸入されました。
問4	答え 一向一揆	一向一揆は、浄土真宗の門徒が団結して守護大名や他の宗派と戦った武装蜂起です。各地で発生し、時には地域全体の支配権を握るほどの強い勢力を誇りました。
問5	答え 足利義満	室町幕府の第3代将軍である足利義満は、力のある守護大名を抑え込むと同時に、1392年に南朝の天皇から北朝の天皇へ位を譲らせる形で南北朝を合体（統一）させました。
問6	答え 沖縄本島	沖縄本島を中心とする琉球王国は、中国、日本、東南アジアの間に位置する地理的条件を活かしました。それぞれの国から仕入れた品物を他の国へ運ぶ「中継貿易」を行い、東アジアにおける物流のハブとして莫大な利益を上げました。この貿易を通じて、日本文化や中国文化も影響を受けました。
問7	答え 宋銭	宋から輸入された「宋銭」や、後の明から輸入された「明銭」が流通し、人々の生活に浸透しました。これにより、年貢も米だけでなく銭で納められることが増え、商品経済が飛躍的に活性化しました。
問8	答え 足利尊氏	尊氏は、鎌倉幕府の伝統があった関東地方を安定して統治するため、自身の子供や一族を派遣して「鎌倉府」を置きました。これは、京都の幕府とは別に、東国の軍事や行政をまとめる重要な組織として機能しました。
問9	答え 慈照寺銀閣	慈照寺銀閣は、北山文化の華やかな金閣とは対照的に、簡素で落ち着いた美しさが特徴です。この建物には、畳や床の間、障子などを備えた書院造という新しい部屋の様式が取り入れられました。
問10	答え 倭寇	倭寇は朝鮮半島や中国沿岸の都市を襲撃し、略奪や密貿易を行っていました。被害に悩まされた明は、日本側にこれらを取り締まるよう要求しました。その結果、室町幕府は正規の貿易船を証明する「勘合符」を発行し、正規の貿易船と海賊を区別することで貿易の安全を図りました。
問11	答え 中国	琉球王国は明の皇帝から認められることで、東南アジア諸国との貿易を自由に行うことができました。中国から手に入れた陶磁器や絹織物などを、日本や東南アジアへ運ぶことで、東アジアにおける物流の要所としての役割を果たしました。この貿易ルートのおかげで、琉球王国は短期間で急激な経済発展を遂げることができました。
問12	答え 後醍醐天皇	武士の支持を失った後醍醐天皇は、足利尊氏と対立して京都を追われました。尊氏が京都に別の天皇を立てると、自らは奈良の吉野へ逃れ、そこで南朝を開きました。これ以降、京都の北朝と吉野の南朝が並立する動乱の時代が始まりました。
問13	答え 戦国大名	戦国大名は、領民を直接掌握し、分国法を作るなどして独自の領地支配を行いました。彼らは城を拠点とし、軍事と行政を一体化させて、自分の領地を強く支配しようとしていました。
問14	答え 加賀国	加賀国では、蓮如の布教によって浄土真宗が深く浸透しました。門徒たちは結託して守護大名を追放し、その後約100年間にわたり、「百姓の持ちたる国」と呼ばれるほど、民衆自身による自治を実現しました。
問15	答え 土倉	「土倉（どそう）」は、もともと商品を保管する倉庫を指していましたが、預かった商品を担保にして金を貸す質屋のような役割を持つようになりました。酒屋とともに幕府から営業の認可を得る代わりに税を納めることで、幕府の重要な財源となりました。
問16	答え 二条河原の落書	二条河原の落書は、当時の世の中の様子や政治の混乱を風刺した文章です。二条河原（現在の京都市内）の壁などに書かれたとされており、当時の庶民や武士が感じていた政府への不信感が鋭い言葉で表現されています。
問17	答え 中国	中国は当時、非常に進んだ産業や文化を持っており、日本を含む諸国から製品が求められました。琉球王国などは、この中国と日本、あるいは東南アジア諸国の間に立って仲介役を果たすことで、大きな経済的恩恵を受けました。この物流のつながりが、当時のアジアの経済圏を支えていました。
問18	答え 管領	「管領」は幕府の最高職であり、将軍に代わって政務を取り仕切る重要な役割を担いました。特に力のある有力な守護大名の家柄（斯波、細川、畠山氏など）から選ばれることが多く、幕政の実権を左右する大きな影響力を持っていました。
問19	答え 足利義政	義政は京都の東山に山荘として東山殿（のちの慈照寺、銀閣）を造営しました。その中の東求堂同仁斎という建物には、書院造の特徴である「床の間」や「違棚」が備わっており、後の日本建築に多大な影響を与えました。
問20	答え 中継貿易	中国、日本、朝鮮、東南アジア諸国を自国の船で結び、それぞれの国の特産品を運ぶ貿易を行いました。例えば、日本の銀や工芸品を中国へ運び、中国の絹織物や陶磁器を東南アジアへ運ぶといった具合に、仲介によって大きな利益を得ました。
問21	答え 室町幕府	尊氏は京都に拠点を置き、自らを征夷大将軍として「室町幕府」を開きました。幕府は将軍の補佐役である管領や、地方を統治するための鎌倉府などの組織を整え、武士による新たな支配体制を築き上げました。
問22	答え 書院造	書院造は、床の間、違い棚、付け書院といった装飾的かつ機能的な要素が備わっているのが最大の特徴です。畳を部屋全体に敷き詰めることが一般的となり、武家だけでなく後に公家や寺院にも取り入れられました。これにより、現在私たちが生活する「和室」の空間デザインが完成しました。